

様式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	所沢市子ども・子育て会議（令和5年度第2回）
開 催 日 時	令和5年8月29日（火） 午後2時00分から午後3時30分まで
開 催 場 所	市役所8階大会議室
出席者の氏名	（会議録別表1）のとおり
欠席者の氏名	（会議録別表1）のとおり
説明者の職・氏名	株式会社サーベイリサーチセンター：石塚 敦 宮口 菜奈
議 題	議事 （1）「第2期所沢市子ども・子育て支援事業計画」の見直し（「教育・保育」量の見込みと確保の内容） （2）「計画策定に向けたアンケート調査」に関する意見交換
会 議 資 料	・資料1：「教育・保育」量の見込みと確保の内容 ・資料2：「アンケート調査項目案」に関する資料 ・資料3：アンケート調査項目案（小・中学校の生徒本人用） ・資料4：アンケート調査項目案（就学前児童の保護者用） ・資料5：アンケート調査項目案（保護者向け設問比較表） ・追加資料：（平成30年度）所沢市 子ども・子育て支援に関するアンケート調査（就学前児童用）
担 当 部 課 名	こども未来部 市来部長、青木次長 こども政策課 田中課長、中村副主幹、高橋主査、川名主査、木下主任、分部主任、奥主事 こども支援課 清水課長、美甘主幹 こども福祉課 加賀谷課長 青少年課 榎本課長 保育幼稚園課 青木課長、東主幹 健康づくり支援課 岩雲課長、松本主幹 （事務局）こども未来部こども政策課 電話 04-2998-9415

会議録

(会議録別表 1)

所沢市子ども・子育て会議委員会名簿

	氏名	出欠席状況	選出母体等
1	佐藤 愛子	出席	市民公募
2	下村 友香	欠席	市民公募
3	齊木 景子	出席	市民公募
4	津村 亜紀子	出席	市民公募
5	野本 理恵	出席	所沢商工会議所
6	渡辺 良雄	出席	所沢地区労働組合協議会
7	渡辺 由美子	出席	所沢市私立幼稚園協会
8	川口 貴史	出席	埼玉県保育協議会
9	後藤 泰秀	出席	地域型保育事業運営団体
10	小松 君恵	出席	地域子育て支援拠点事業運営団体
11	秋山 展子	出席	学校法人 秋草学園 秋草学園短期大学
12	仲田 智宏	出席	所沢市立小中学校校長会
13	小沢 貞泰	出席	所沢市放課後児童対策協議会
14	秀島 寿子	出席	所沢市民生委員・児童委員連合会
15	中村 芳江	出席	子ども・子育て支援関係者
16	田口 眞弓	出席	子ども・子育て支援関係者

発 言 者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>～ 開 会 ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 欠席者等の報告 ■ 調査業務委託業者の紹介 ■ 会議成立の報告 ■ 会長挨拶 ■ 傍聴者の確認（傍聴なし） ■ 資料の確認 <p>≪議事 1 「第 2 期所沢市子ども・子育て支援事業計画」の見直し（「教育・保育」量の見込みと確保の内容）≫</p> <p>～事務局より資料 1 に基づき説明～</p>
委員	<p>昨年度待機児童数が増えたためそれをカバーしているという説明があったが、もう少し具体的に各定員の増員数を教えてほしい。</p>
事務局	<p>（こども政策課）</p> <p>令和 4 年度からの見直しの増減の内容としては、「特定教育・保育施設」として、1号認定では幼稚園の新制度への移行が 110 人、認定こども園への移行が 210 人となっている。2号認定では認定こども園の移行による増員が 25 人、定員増として 18 人、企業主導型の地域枠の確保として 4 人となっている。</p>
委員	<p>この見直しによって来年度は待機児童がゼロになると考えてよいか。</p>
事務局	<p>（こども政策課）</p> <p>待機児童がゼロになるように考えてはいるが、申請件数の想定がつかないため、この場をもってこの数字で完全にゼロになると断言するのは難しい。</p>
委員	<p>地域型や企業主導型で 3 号の定員が増えた後、3 歳児が入りにくいという現象が起きている地域もあるがどのように考えているか。</p>
事務局	<p>（こども政策課）</p> <p>既存施設の活用という点から幼稚園の利用者をもう少し広げる、幼稚園の申請を促すということを考えている。</p>

	<p>《議事2「計画策定に向けたアンケート調査」に関する意見交換》 ～事務局より資料2～5に基づき説明～</p>
<p>委員</p>	<p>このアンケートは全世帯や全数調査ではなく、抽出した世帯や市民に調査するのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>(こども政策課) 子育て世帯の保護者に対するアンケートは、無作為抽出を行う予定である。こども本人へのアンケートは、小・中学校は学校を通して実施するため教育委員会と調整を図りながら学校を指定する。高校生は、郵送で行うため無作為抽出を考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>小・中学生のアンケートについて学校単位で抽出するとなると、地域的な偏りができてしまうのではないかと。教育委員会との調整も関係すると思うが、例えば学年を指定して全市的に配布するといった工夫をしてみてもどうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>(こども政策課) 地域課題があることは認識している。対象は小学校5年生、中学校2年生で調整する方向だが、サンプル数の都合上、すべての学校を対象とすると各学校での対象者数は少なくなる。学校のホームルームを活用して行う予定であるため、クラスの中でアンケートをやるこどもとそうでないこどもがいることは適切ではない。なるべく市内で散らばるよう調整していきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>意見がうまく言えないこどももいるため、こどもからうまく意見を引き出すためにもできれば全員から意見を聴ける形にしてほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>(こども政策課) 教育委員会とも調整させていただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>保護者向けアンケートの前回の回答率が56%と半分程度であるにもかかわらず同じ内容でアンケートを行うのか。回答率向上策はあるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>(こども政策課) 就学前児童の保護者に対しては今回WEBでの回答も併用予定であるため、回答率向上を期待している。</p>

委員	<p>すべてのアンケートに居住地域という設問があり、恐らく 11 行政区のことを指していると思うが、11 行政区すべての地域、学校でアンケートを行えるのか。</p>
事務局	<p>(こども政策課)</p> <p>保護者については、抽出時にすべての行政区から抽出を行う予定である。こどもについては、サンプル数の都合上、すべての行政区は難しいかもしれないが、地域の課題が拾えるようになるべく全域に散らばるように工夫したい。</p>
委員	<p>就学前児童保護者アンケートの質問の量がとても多いため、前回の回答率が 50%というのは納得できる。謝礼がついていたり、アンケートの目的を示したりしないと協力しようと思えないのではないか。</p>
事務局	<p>(こども政策課)</p> <p>設問数が多いと回答率が低くなるということは認識している。しかし、設問によっては量の見込みの算出等に必要であるため削除できないものもある。回答者の方にとってできるだけわかりやすいアンケートとなるよう、設問設計やレイアウトを工夫することに加えて、アンケートの目的についても明記したい。</p>
委員	<p>数年前にアンケートに回答したが、量が多かったことを覚えている。前回のアンケートは、直接送られてきた紙に記入して返送すれば良いものだったか。</p>
事務局	<p>(こども政策課)</p> <p>追加資料が前回のアンケート用紙になっており、直接丸をつけて回答いただくようになっている。これでも量が多く負担は大きいと考えられるため、引き続き工夫していきたい。</p>
委員	<p>これほど質問の量が多い中でも 50%の方が返答しているため、回収率は高い方だと思う。それは所沢市の市政に対して意見を申したいという市民の声とも考えられると感じた。</p> <p>また、アンケートにかかるおおよその所要時間を記載してはどうか。</p>
事務局	<p>(こども政策課)</p> <p>こども本人へのアンケートについては適切な回答時間について先</p>

<p>委員</p>	<p>生方から意見をいただいている。就学前児童をはじめ保護者を対象としたアンケートについても、所要時間の記載をはじめ回答率向上に向けた工夫を考えていきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>（こども政策課） 前回のアンケート結果から見えてきた課題を申し上げると、親族や知人等の関わりの中で子育て家庭が孤独や不安に陥りやすい状態がある、放課後の過ごし方に多様なニーズが存在している、経済的な困難を感じている子育て家庭が存在している、保護者の就労状況は社会制度や経済状況に応じて年々変化しているといったことがある。こうした課題を踏まえて総合的に政策を進めていきたいと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>課題は見えてきているが、その課題の解消に向けてどのように進めてきたか、どのような政策に取り組もうとしているのかを公表しなければ、やはり皆やる気はでない。現状を説明し、生活をより良くするために協力をお願いしたいという熱い気持ちが伝われば、アンケートを書くことで現状が良くなるのであれば協力するという人はいると思う。やる気を出させることが大事だと感じている。</p>
<p>事務局</p>	<p>（こども政策課） 我々としてもこどもの最善の利益を実現するために、こうした場を借りながら施策に反映していきたいと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>アンケートはすべて一人で答える必要があるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>（こども政策課） 世帯ごとに送るため、世帯のうちのどなたか一人に回答してもらうことを想定している。回答をクロス集計する関係上、一世帯で一名の方に回答をお願いしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>回収率を上げるために特典をつけるといったことをすれば、忙しい中でも協力しようという気持ちになれるのではないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>（こども政策課） 貴重なご意見として承りたい。</p>

<p>委員</p>	<p>以前アンケートに回答した時に、それぞれの質問が何に繋がるのかわ見えず、例えば帰宅時間等ただ個人情報を知られているような気がして嫌だった。その質問が今後何に生かされるのかを各設問に記載することで納得して回答できるのではないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>(こども政策課) 帰宅時間等に関する質問について回答すると、新たに開所する施設の開所時間や数等の検討に参考とさせていただくことを想定している。こちらの趣旨がきちんと伝わるように、表記の仕方等を工夫していきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>目的を書いてもらえば、正直に書けると思う。生活を見られているような気がしてしまうので、そのあたりを考えてほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>こどもの意見聴取は今までにないことなので、アンケートでこどもの生の声が出てくることを願っている。資料2の「こどもの意見聴取方法案」の③に「こどもと意見交換できる場を用意」とあるが、既に民間サイドで規模は小さいが児童館等でこどもの意見を聞く企画を始めている。また、10月にはZOOMを使ってこどもが言いたい放題できるようなことを企画しているところもある。しかし、あくまでも民間サイドであり、アンケートがメインということは理解しているが、参考意見としてこどもたちの意見を市に共有することは可能か。</p>
<p>事務局</p>	<p>(こども政策課) こどもの意見表明の場があることやこどもの意見についての情報提供は機会があればぜひお願いしたい。</p>
<p>副会長</p>	<p>こども向けアンケートの設問が暗い印象がある。行政データとして必要なものをきちんと取っていくことも必要と思うが、これから未来を作っていくこどもに向けて明るい設問を入れていただきたい。 学校現場の人間としても、小・中学校でアンケートを実施するのは良いと思う。こどもは内容をよく読まないため、担任が読み上げ、目的を説明すればこどもは一生懸命書いてくれるはずなので、学校で協力できるように、校長会でも話したい。</p>
<p>会長</p>	<p>今回、高校生も対象に含まれているが、アルバイトに関する質問は盛り込まないのか。</p>

<p>説明者</p>	<p>高校生の調査項目は小・中学生と共通する項目を中心にする予定だが、選択肢としてアルバイトに関連するものを追加することを想定している。</p>
<p>会長</p>	<p>アルバイトをする理由が自分のためである子もいれば、家計を支えるためである子もいる。そういったこともアンケートから拾えると良いと感じた。</p>
<p>委員</p>	<p>小・中学生本人のアンケートの項目に現在の困りごとや悩みに関する設問があるため、自分の好きなこと、夢中になれることに関する項目があると、アンケートに回答する時間が自分自身に向き合える時間にもなるのではないか。</p>
<p>副会長</p>	<p>困りごとや悩みに関する設問の結果が出た時、学校側は対応する必要がある。いじめや生活に関するアンケートは学校で行っているため、このアンケートは未来に向けたまちづくりを目的としたポジティブな質問を検討していただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>(こども政策課) ご意見を踏まえて調整させていただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>資料3の5ページ、25番にデジタル機器の所有状況に関する設問がある。デスクトップパソコン等の選択肢があり、聞く側は当然インターネットにつながっていると思い込んでいるが、いずれもインターネットに繋がっているとは記されていない。外部への接続が低年齢化しているため、可能であればインターネットに繋がっているこれらの機器と同時に、それを買ってくれた人との約束事に関する設問を設けてほしい。ネットリテラシーは各段に上がっていると思うが、ネットにまつわるトラブルの歯止めになるところは買ってくれた人との約束事だと思うため、非行の防止につながるという意味でも工夫をしてほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>(こども政策課) ご意見を参考に、設問の仕方については教育委員会と調整していきたい。</p>
<p>副会長</p>	<p>インターネットに関する情報提供をさせていただく。コロナでGIGAスクール構想を前倒しで進めており、家で授業を受けられるよう</p>

<p>委員</p>	<p>にこどもに端末を持たせ、家庭にWi-Fi整備をお願いしたため、こどものほぼ9割以上は確実に家に帰ればネットが繋がる環境にいると思う。家に帰るとWi-Fiが繋がるため、こどもたちの持っている端末はSIMがなくても繋がる状況であることをお伝えしたい。</p> <p>特別な配慮のいるこどもからの意見聴取についてはどのように考えているか。</p>
<p>事務局</p>	<p>(こども政策課)</p> <p>配慮が必要なこどもに対して別途何かをするということは特に考えておらず、そういったこどもでも答えられる設問を検討している。</p>
<p>委員</p>	<p>今回のアンケートは無記名で実施するとのことだが、保護者用のアンケートの8番のこどもをみてもらえる親族・知人の有無にいずれもいないと回答したような人がいた場合、個人の特定ができないため、市から特にアプローチをすることはないという認識でよいか。</p>
<p>事務局</p>	<p>(こども政策課)</p> <p>今回はアンケートであるため、個人の特定はできない形で実施することを考えている。調査票を送る際に、相談先をまとめた資料を同封したり、WEB上でも相談先を表示したりすることで、悩みを持っていて相談先が分からない方に対して周知をしていく。</p>
<p>委員</p>	<p>就学前児童保護者アンケートに保護者の就労状況に関する設問があるが母親目線での回答を求めているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>(こども政策課)</p> <p>アンケートへの回答はどちらか一人にお願いすることになるが、この設問に関しては前回同様父親、母親それぞれの状況を回答していただくものになっている。</p>
<p>委員</p>	<p>保護者の就労状況に関する設問について、恐らく同じ選択肢が母親、父親の欄にそれぞれあるという認識でいる。</p> <p>就学前児童保護者アンケートの10番に子育ての相談ができる人・場所の有無に関する設問があるが、一つの質問の中に二つ回答が必要になっている。相談できる人はいるが、場所はないという人もいると思うため、一つの設問で二つのことを聞くのは良くないのではないか。</p>

事務局	<p>(こども政策課)</p> <p>まず、保護者の就労状況等については、設問を工夫したいと考えている。10番の子育ての相談ができる人・場所の有無は父親、母親のように別の欄を設けているわけではないため、わかりにくいようであれば設問内容を工夫したい。</p>
委員	<p>この時代に、父親と母親が揃っていることが普通というわけでもないので、父親と母親で回答欄が異なる設問において、ひとり親家庭へ配慮した選択肢等があると良いと思った。</p>
事務局	<p>(こども政策課)</p> <p>回答者が必ずしも両親が揃っている家庭ではないことも想定されるため、設問の仕方は工夫したい。</p>
副会長	<p>小・中学生本人へのアンケートに学校で回答するということはこどもの教育の時間を使うため、アンケートに回答する時間を教育的な意義のあるものにすることがとても大切だと思っている。そのため、相談場所を知っているかどうかという設問に対して一問一答で終わるのではなく、相談場所を選択肢として列挙することで周知につなげたり、前向きな気持ちになれたりするようなアンケートにしていきたい。</p>
委員	<p>前回の調査時に、自分の住んでいる地域の行政区を直感的にわかる人はいないのではないかと思い、通学している小学校に関する設問のほうがわかりやすいのではと意見したが、実際にアンケートを行った際には行政区早見表を同封し、それを見て自分の住んでいる地域の行政区がわかるようにしていた。今は設問だけを見ているが、実際の回答時にはそうした仕掛けもあると感じた。</p> <p>数年前もボリュームが多いことは議論になったが、一番のポイントは国が指定する必須項目あり、これがとにかく多い。そのため、アンケートへの協力を求める挨拶の中で、「全国的に」と一言入れることで、所沢市だけではないという表明になるのではないか。たくさんの人に協力していただきたい一方で、全設問に回答しているものだけを回答として認めるわけではないと思う。見えてくる全体傾向をつかむのだという理解のもとこのアンケートが実施されていくということをこの場における共通理解とした方が良いと感じた。</p>

事務局	<p>(こども政策課)</p> <p>アンケートの回答がより良くなるために、アンケート冒頭の挨拶部分含めて工夫させていただきたい。</p>
委員	<p>先程 50%の回答率は低いと述べたが、これだけ設問が多いアンケートに 50%の市民が回答していることは凄いことだと認識を改めた。</p>
事務局	<p>(こども政策課)</p> <p>経営企画部が実施している市民意識調査と比較しても 56%はかなり回答率が高く、関心の高いテーマであると認識している。アンケートを工夫することでさらなる回答率向上を目指したい。</p>
委員	<p>生年月日が平成になっているがどのような扱いか。</p>
事務局	<p>(こども政策課)</p> <p>今ご覧いただいている縦向きの追加資料は前回調査時に使用した調査票となっているため、平成という表記になっている。</p>
会長	<p>本日出た意見をもとに、アンケート調査項目の検討を進めていただきたい。以上で、本日の議事はすべて終了する。</p> <p>■次回開催の案内 来年 2 月上旬の開催を予定</p> <p>～ 閉 会 ～</p>